

# X 2026年度 小論文

## 薬学部

問題冊子 (1～2ページ)

### 注意事項

- (1) 試験開始の合図があるまで、この問題冊子の中を見ないこと。
- (2) 試験中に問題冊子の印刷不鮮明、ページの落丁・乱丁および解答用紙の汚れ等に気付いた場合は、手を挙げて監督者に申し出ること。
- (3) 解答は別に配付する解答用紙に正しく記入すること。裏面は使用しないこと。  
また、解答に関係のない語句・記号・落書き等は解答用紙に書かないこと。
- (4) 解答用紙上部の受験番号欄・氏名欄に受験番号と氏名を記入すること。
- (5) 問題冊子の余白等は適宜使用してもよい。

次の設問に答えよ。

問 次の文章を読み、①および②について、あなたの考えを合計800字程度で述べよ。

日本の総人口に対する65歳以上の人口の割合を高齢化率とよびます。内閣府の令和5年度版高齢社会白書によると、2022年10月の高齢化率は29.0%であり、2037年には33.3%となることが予想されています。

現時点での日本人の健康寿命（健康上の問題で日常生活が制限されることなく生活できる期間）と平均寿命の差はおよそ10年程度です。よって、この10年の間に、加齢や疾患などによって健康な状態から介護が必要な状態へ変化していくことになります。

健康な状態と要介護状態の中間の段階に「フレイル」があります。特に、高齢者は「フレイル」の段階になりやすいことが知られています。「フレイル」には、体重減少や筋力低下などの身体的な変化だけでなく、気力の低下などの精神的な変化や社会とのつながりが希薄化するような社会的な変化も含まれます。一方で、「フレイル」は可逆性という特性をもちます。一旦、フレイルの段階になったとしても、栄養摂取、運動および社会活動などに取り組むことでその進行を緩やかにし、健康な状態に戻すことができるとされています。

全ての国民が寿命を全うするまで健やかで心豊かに生活可能な社会を実現するためには、健康寿命を延ばすことは最重要ですが、「フレイル」の段階になったとしても健康な状態にもどすための様々な介入も重要と考えられます。

- ① あなたの家族がフレイルの段階になったとき，その家族を健康な状態にもどすためにあなたはどのように介入しますか。
  
- ② 日本人の健康寿命を伸ばすために，社会はどのような取り組みを行うべきだと思いますか。

